

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700028	
法人名	社会福祉法人水鏡会	
事業所名	グループホームひだまりの里	
所在地	青森県三戸郡南部町垵渡字館2番地7	
自己評価作成日	平成23年8月20日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0292700028&SCD=320&P_CD=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	平成23年9月8日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園を行っており、職員・入居者が一緒に畑作りから、植え、収穫を行い、収穫された野菜を、日々の料理で味わい、季節を感じながら楽しんでいる。 ・年間の行事を充実させ、個別な買い物や外出に力をいれ、日々の生活の充実に努めている。 ・看護師が常勤で2人配置となっているため、入居者の健康管理や、異常の早期発見ができる。 ・3ユニットの行き来がしやすく、行事を大勢で楽しむことができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かで空気が澄み、交通量が少ないこともあり静かな環境である。敷地内に畑と作業小屋があり、入居者が好きな時間帯に身支度をし作業が行える環境作りがなされている。また、犬や猫がおり、鯉や亀のいる池や事業所の周りは道が整地させているため、事業所の周囲を散歩することができる。事業所内は改修しながら様々な工夫がなされ、3ユニットが自由に往来できる。また、看護師が配置され、看取りに取り組みされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の出身地を尊重し地域の中でその人らしい生活ができるような理念を掲げ、朝の申し送りで唱和し、理念の実現に向けて、前向きに取り組んでいる。	法人の理念に基づき各ユニットで毎年独自の理念も作成し、考察し見直している。毎朝の申し送りで唱和し実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域と少し離れた場所にあるため、職員・入居者は日々の散歩や、近くの公園まで外出し地域の方々と交流している。また、地域の祭りやイベントに参加し、介護相談コーナーを設け、ホームの啓発活動を行っている。	犬の散歩等で近所の方々と日常的に挨拶を交わしている。地域の農家から米を購入したり、祭りや行事に参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト職員による、認知症サポーター養成講座を定期的に行っている。見学や相談には随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に行っている。会議では、資料やパソコンを用いて、入居状況や行事の実施内容等を報告し、いろいろな視点での意見交換・情報交流の場となっている。意見や要望がサービスの向上に反映されている。	地域の花見や祭りの情報の提供がある。震災の状況を報告し、地域住民の参加者から停電でサービスが低迷しないように発電機のガソリンの供給など福祉施設が優先できるように等の具体的な意見が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉担当者と電話やメールで連絡・相談をしたり、直接会って課題解決に向けた話し合いをしサービスの質の向上を図っている。運営推進会議には毎回参加して頂けるように働きかけている。	介護報酬など制度の確認や権利擁護などを問い合わせたり、保険者から調理の仕方の確認の問い合わせがきたり、日常的に互いの協力関係が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に会議を開催し、会議録は全職員が閲覧できるようにしている。定期的に内部勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	定期的に研修会を行い、職員間で共有している。事業所内の玄関や窓、非常口などは施錠せず、自由に出入りできるようにしている。夜間は安全確保のために施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、学んでいる。外部の研修にも積極的に参加し、全体に報告し、理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修報告会等で、全職員が制度について学んでいる。必要な人には活用出来るように支援し、現在成年後見制度を利用している人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解除の説明は、一方的にならないように丁寧に説明し、疑問や不安がないか確認しながら行っている。退居先には、情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見・不満・苦情については、日々のコミュニケーションから本人の思いを汲み取るよう支援している。家族の意見や要望は全体会議やユニット会議、運営推進会議にて話し合いの場も設けている。	面会時に気が付いたことは職員に話せる体制や意見箱の設置など機会を作っている。家族から出された意見を全職員に伝え、すぐに対応を話し合い実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや勉強会で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常においても、その都度意見を聞き、リーダー会議や運営者と連携し解決に向け取り組んでいる。	毎月の会議で意見交換の場を設け、普段から話せる環境がある。日常の業務から気がついた職員の意見を運営者に伝え、改善の話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ユニット各管理者が定期的に、職員の日々の努力や勤務状況・態度の報告等により把握に努めている。資格取得にも積極的であり、職員の意見も取り入れ、職場環境を良くしようと努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の資格や力量の理解に努め、さらに上の資格取得を目指すよう、研修の参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームネットワーク会議に参加し、情報交換や親睦会、相互訪問を行い、サービスの質の向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅や入院先へ訪問し、本人と面談する機会を設け、本人が自由に話せるような雰囲気を作り、不安や重いを汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談する機会を設け、家族が困っていること、本人に対する思いを表出できるような雰囲気をつくるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時、家族と本人の困っている課題を見極め、違った方向性の助言や他のサービスを含めた助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と一緒に食事作りや日々の生活を共にしながら、昔の話をしたり、本人の出来ることを一緒に行い、入居者から学んだり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時や電話等で、入居者の様子を伝え、入居者が求めていることを一緒に考え、時にアドバイスをもらい協力してもらう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連携をとり、本人の希望に応じて、馴染みの人や場に出かけられるように支援している。	それぞれ個別に入居者の出身地の祭りに参加したり、家族と外出先などを相談し馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、手伝いや役割を通じて、自然と利用者同士の会話が引き出せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が途切れないように必要に応じて、相談はいつでも受けられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報収集を行い、本人の状況を把握出来るように努め、日々のかかわりの中からも、本人の意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、生活暦や表情・行動などからアセスメントし本人本位となるように努めている。	日常的な関わりの中で得た情報を、家族と意見交換し意向の把握に努めている。生活の記録には表情や行動など観察したことを意識して記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を、家族・本人から聴取し、その人らしい生活が継続できるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を記録し、バイタルサイン・食事・排泄・入浴・睡眠状況などから、体調の変化や、本人のできる範囲の動きを把握し、職員全員が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の希望を考慮し、毎月のケアカンファレンスで意見交換し、本人が寄り良く暮らすためのケアのあり方を考慮、介護計画を作成している。	毎日の記録で生活の様子を把握し、家族からの話などで原案を作成し、毎月のカンファレンスで話し合い、家族に確認し計画作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有して、ケアや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の車両を活用し、ドライブや行事を行っている。個別的な買い物・外出にも答えられるような支援体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を活用し、各分野の方と意見交換を行い、入居者の生活に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、入居者や家族が希望する医療機関を受診できる支援を行っている。定期受診以外で体調に変化がある際は受診し、入居者が適切な医療を受けられる体制を整えている。受診結果は家族へ報告し、情報の共有もしている。	月2回協力病院から訪問があったり、必要な受診の支援を行っている。受診する際は看護師が状況を記録したメモを提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常的に健康管理が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に設置されている地域連携室と連携をとり、早期退院に向けて協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、十分に本人・家族へ説明し、話し合いの場を設けて、方向性を協議している。入所時の重要事項説明書にも重度化した場合の対応について、看取りに関する考え方を文章化し、説明・納得して頂いている。	最初の契約での説明の他に、食事が口から取れなくなった時点で、重度化について文書で説明をし同意を得ている。更に終末期になった時点で同様に文書で同意を得て、現在も看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に、応急手当普及員の資格を持つ者がおり、定期的に応急手当や対応の勉強会を開催している。また、職員は、心肺蘇生・AED講習などに参加し訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、日中・夜間を想定し、誰でも対応できるように訓練している。運営推進会議で、地域の消防の協力が得られるよう働きかけている。法人で水の確保はしている。非常食については準備中である。	定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施している。震災を教訓に自家発電機を準備し、非常食等の備蓄にも取り組んでいる。緊急通報装置でボタンを押すと業者が駆けつけるシステムを取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、本人にあった言葉使いや、対応を心がけている。対応については、職員間で確認や改善の取り組みをしている。	言葉使いなどを日頃から気をつけている。プライバシー確保の必要なトイレ使用については、さりげないトイレ誘導や介助などに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族からの情報や、入居者との日々の関わりの中で希望の把握に努めている。買い物等に出かけ、自分で選択・決定できる場面を作り、主体性を持って生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、入居者の訴えを尊重し、一人ひとりの希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一度訪問理容や、希望者の毛染めに対応している。外出時には、おしゃれをし、化粧も楽しむ支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、片付けなど、職員と一緒にしている。食事が楽しいものになるよう、入居者の好みをとりいれるように努めている。	畑で自分達が収穫した野菜などを使った食事を一緒に食べたり、能力にあった作業を個別に提供し準備や片付けを共に行っている。日常的に行っているため、自発性が高い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はすべてチェック、水分量は看護師の指示や、自分で水分をとれない方や、とりたがらない方をチェックし、脱水等を未然に防ぐようにしている。自分でとれる方も、観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、職員が声かけし、個別に歯磨きや義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を主に考え、オムツの使用を極力減らす努力をしている。排泄パターン・習慣を知り自立に向けた支援をしている。	自らトイレに立つ時間を記録したり、排泄リズムを把握しトイレ誘導を行っている。トイレ使用率は高く、ズボンの上げ下げを優先したい方には家族と相談し、尿取りパットを使用しないで自立度が向上している例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、繊維の多い食材や、水分量、牛乳等の摂取や、運動・腹部マッサージなど入居者にあつた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴曜日を定めるなどの、一定の日課はあるが、希望があれば、出来る限り希望時間に入浴できるよう支援は行っている。	希望の入浴が行えるように体制を整えている。りんご、ひのきの木や花など、視覚や匂いなどでも入浴が楽しめるように工夫し取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課を決め、一日のリズムを作るようにしているが、状況・本人の体調に応じて、自由に休める環境作りに努めている。夜間眠れない方には、温かい飲み物を準備したり、足浴等をしたりし、より良い睡眠がとれる工夫を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用を明記したものを、カルテに入れ理解している。服薬時も確認できるように、入居者全員の薬の情報をファイルに入れ、すぐ見て確認できるようにしている。変化があったときは、すぐ看護師に報告し、指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴の把握に努め、今、出来ることは何か、したいことは何かを考え、一人ひとりの状態にあわせ、掃除・調理・裁縫・畑仕事などの役割をこなしたり、ドライブ・買い物・アクティビティ等の気分転換も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は、本人の希望により行っている。ホームの周囲は散歩がしやすいように整備されているため、一人でも多く戸外へ出られるようになっている。	畑の作業、犬との散歩や買い物、祭り参加など一人ひとりの希望と能力等に添った支援に取り組んでいる。遠くへの外出の時は家族からの協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理能力を考慮して、買い物や日常生活でお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、電話をしたり、手紙をだしたりしている。出来ない部分は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るなど、季節を感じてもらえるように心がけている。音・光・匂い等にも気配りをしている。	玄関は広く、廊下にはソファもあり気軽に休んだり、作品を見たりできるスペースがある。換気がなされ気になる臭いはなく、掃除も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が、話をできるテーブルの配置や環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使用していた品を持ち込んでいただく様になっている。家族や本人の工夫により、生活しやすいようにおかれたり、居心地よく過ごせるように配慮している。	自宅で使っていたこたつを居室に置いたり、今までの生活で使い慣れたものを続けて使用している。居室には大きな窓があり、外を眺めたりして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて、出来る限り一人で生活ができるように支援している。		